

研究・調査報告書

報告書番号	担当
122	高崎健康福祉大学薬学部細胞生理化学研究室
題名 (原題/訳)	
Zolmitriptan and human aggression: interaction with alcohol. ゾルミトリプタンとヒトの攻撃性: アルコールとの相互作用	
執筆者	
Gowin JL, Swann AC, Moeller FG, Lane SD.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Psychopharmacology (Berl). 210(4): 521-531 (2010)	
キーワード	
セロトニン、5-HT _{1B/D} 受容体、アルコール、攻撃行動	
要 旨	
<p>背景: ヒトの攻撃性を抑制するための標的としてセロトニン 1B/D (5-HT_{1B/D}) 受容体の重要性が示されている。この研究では、ヒトの攻撃的行動を抑制する 5-HT_{1B/D} 受容体作用薬ゾルミトリプタンの能力と、攻撃性を亢進させる物質として良く知られているアルコールとゾルミトリプタンとの相互作用について検討した。</p> <p>方法: 11 人の social drinker (付き合い程度に飲酒するヒト)、内 7 人は男性、が 3-4 週間継続した研究に参加した。種々のアルコール摂取量で、攻撃性の変化をヒトの攻撃性に関する研究で広く用いられている Point-Subtraction Aggression Paradigm (PSAP) を使って評価した。PSAP は①monetary: 反応することで金銭を得られる非攻撃的反応、②aggressive: 自分は金銭を得ることは出来ないが、架空の他人から金銭を取り上げる攻撃的反応、③escape: 架空の他人から金銭を奪われるのを防ぐ逃避反応、から構成されている。被験者は 0、0.4、0.8 g/kg のアルコール用量と共に、5 mg のゾルミトリプタン、または対照プラセボを投与された。アルコール摂取による運動機能の変化を考慮して、結果は非攻撃的反応 (①) に対する攻撃的反応 (②) の比として分析した。</p> <p>結果: アルコールによる [攻撃的反応/非攻撃的反応] 比を、ゾルミトリプタンは有意に減弱させた。特に、対照と比較してゾルミトリプタンは 0.4 g/kg や 0.8 g/kg のアルコール用量による攻撃性を低下させた。</p> <p>結論: 5 mg のゾルミトリプタンはアルコールに関連した攻撃性を効果的に低下させた。この研究の結果は、5-HT 機能、特に 5-HT_{1B/D} 受容体はアルコールによって亢進する攻撃性を調節することで重要な役割を果たしていることを示唆している。ゾルミトリプタンやその他の関連化合物はヒトの攻撃的行動を調節する薬剤として有望である。</p>	